

令和7年度 中学生の「税についての作文」

日本税理士会連合会 会長賞



「私」＋「税」＝「未来」

横浜市立あざみ野中学校 第三学年 岡崎 智子

小学生の時に、「はるか昔から現在まで、ずっと残り続けているものを調べよう」という課題が出た。案外見つからず、長い間考えてみてもなかなか思いつかない。黒板に書かれた皆の解答もわずかだ。そんな中、ひときわ目立っていた解答が『税』だった。税とは形を変えつつ、千年以上の時を経てつながっているものだとなり、とても驚いたことを、先日の歴史の授業で久々に思い出した。

今の世の中には税にまつわる様々な意見がある。その中には批判的なものも、もちろんある。批判的なものの方が多いと言ったほうが正確かもしれない。しかも一口に税といっても、非常に多くの種類がある。最も身近な税は、やはり消費税だろう。調べてみて実はその他にも、国税の「森林環境税」、神奈川県「水源環境保全税」、そして私が住む横浜市の「横浜みどり税」等があると知った。そのため、横浜市は特に税金が多い都市とされているらしい。あまり税を意識したことがなかったからこそ、衝撃を受け、なぜこんなに税を納めなくてはならないのか、疑問に思った。

さらに調べていくと、神奈川県「歳出総額のうち、約二十％も教育費が占めている」と知った。その他にも、約十七％が福祉や子育てのために、約十％が健康を守るために、さらに約十％が安全な生活を守るために、約

六％が道路の整備やまちづくりのために使われていると知った。税は私たちの生活を支えている、とよく言われる。頭では理解していたつもりだったが、私たちが納めた税が巡り巡って私たちのために使われる、という循環サイクルの重要性を改めて見せつけられた気がした。

私たちには、納税の「義務」がある。しかし、その裏には、私たちが安心して安全な生活を送るという「権利」があるのだ。大人になったら、もっとも税を意識する時があるだろう。そうした時に、「私のお金から税を納めるのは嫌だ」と考えるのではなく、「この税で、私たちはどういうメリットを得られるだろう」と「権利」にも目を向けることで、自然と自分が社会に生きる意義や働くことの大切さが理解できるようになり、税に夢や希望を託せるようになるのだと思う。

そして、もう一つ大切なことは、私たち自身の社会において困っているところ、改善したいところを積極的に国等に発信していくことだろう。今は選挙のみならず、議論への参加や議会の傍聴等、政治にふれる多くの機会が私たちに門戸を開いて待っている。今こそ、世論に興味をもち、そうした機会をつかみ、政治参加への一歩をふみ出し、税についてもっと考えていくべきなのだ。

私たちが税を納めることで社会を支え、税が様々な公共サービスを提供することで私たちを支える。大人になったらそう考えて積極的に政治に参加して、税を納めたい。そして税のあり方、私のあり方を考え続けた



宮島と紅葉饅頭